



はたおりの技術を習得し 次世代へ伝承する

はたおり伝承の会 会長 藤本京子さん・会員の皆さん

※「市民が主役」は今号で最終回です。取材へのご協力・ご愛読いただきありがとうございました。

はたおり伝承の会は、郷土博物館が開館した翌年(昭和61年)、市民の方が寄贈された高機(たかき)などを使用して開催した「裂き織り講習会」からスタートしました。

この催しは大変好評で、その後講師の呼び掛けにより「高機サークル」が誕生しました。現在、「高機サークル」は「はたおり伝承の会」と名称を変え、博物館の収蔵品である高機を使用してコミュニケーションプラザひまわりで活動しています(※)。会員数は約30人、活動日は主に水・金曜日です。



裂織りとは、使い古した布を細く裂いてひも状にし、それを緯糸(よこいと)に使用した織物のことで、ものを大切にする精神から始まったとされています。



裂織りとは、使い古した布を細く裂いてひも状にし、それを緯糸(よこいと)に使用した織物のことで、ものを大切にする精神から始まったとされています。

まず、糸が不足したり無駄になったりしないように計算し、糸をがまの穂の形に大管に巻きまします(写真①)。次に整経(せいけい)です。整経は、必要な本数の経糸を、長さをそろえて巻き付ける工程で、数百本もの糸を整経台に巻き、約20本ごとに糸でまとめてそろえます(写真②)。

整経が終わると、仮箆通し(かりおさとおし)です。整経台から外した経糸の束を、仮の箆に1本ずつ通して箆の幅にそろえます(写真③)。

そして、千巻き(ちまき)です。仮箆通しで織り丈や密度を整えた糸を、千巻きにきっちり巻き込みまします(写真④)。

その後、巻取り棒に糸を巻いていき(男巻結びつけ)、やっと準備完了です。

以上のような多くの下準備が終わって初めて織ることができまします。

難しそうですね、初心者から始めて、作成できるようにするまでにはどれくらい期間がかかりますか?

入会すると半年間の基礎講習があり、それが終わる頃にはひととおり織れるようになります。

入会するには、まず郷土博物館で毎年秋に行われる「はたおり教室」への参加が必要となります。

そこで裂織りを2層織る体験をし、機織りについてもっと知りたかった方はどなたでも入会できます。

春までの基礎講習で、先ほどお話しした工程を先輩会員からひととおり習います。一人で織れるようになると、郷土博物館主催で行う、夏の「体験はたおり」や秋の「はたおり教室」の準備や指導をまします。自分が習ったことを、翌年次の会員に教えていくことで理解を深め、技術を伝承していきます。

その後は、高機を使い、好きな物を織って作品づくりを楽しむことができます。

親しまれている動態展示

会員による機織り作業は、原則公開していて、「動く展示(動態展示)」として市民の方々に親しまれています。

活動拠点が郷土博物館の伝承スタジオだった時は、小学校の団体見学などでも人気があり、児童からの質問に会員が応じるなどしていました。

活動拠点がコミュニティプラザひまわりに移動してからは、部屋の広さの都合で、見学の受け入れは少人数に限らせていただいています。今後は団体見学なども受け入れたいですし、子ども体験活動など、興味を持つ

「技術を伝承していく」ということは、とても難しいことです。引き継ぐ方がいなければ、その技術はなくなってしまいます。

新人会員の不足や活動場所などが、今後の課題でもあります。

世界にひとつだけの作品 会員の皆さんは、とても真剣かつ楽しそうですね。

機織りには、どの工程が一番重要ということはありません。始めから終わりまで注意深く丁寧に作業することが大切です。

糸は正直なので、粗末にしたり少しでも気を抜いたりすると、それが最後までひびいて最終的に良い布になりません。

「失敗は成功の元」という言葉がありますが、私たちは失敗を恐れずに挑戦し、より高度な物を目指して学習しています。

機織りは不思議なもので、布を見て仕上がりイメージができません。完成して初めて作品が分かる「世界にひとつだけ」のもの。だからこそ、完成した時や自分の想像どおりに織れた時はとてもうれしいです。

制作された作品は、郷土博物館で見られるそうですね。

企画展 染める・織る・縫う

制作された作品は、郷土博物館で見られるそうですね。

年に1回、清瀬に関する絵柄のタペストリーを制作し、企画展「染める・織る・縫う」にて展示後、収蔵品として寄贈しています。

その他、カードケースやペットボトルカバー、敷物など、裂織りで作ったさまざまなグッズは博物館のミュージアムグッズとして販売されています。

「きよせさきお」グッツの売上金は、高機のメンテナンス費用などにあてられており、清瀬市の文化財の維持・活用に役立っています。

今後も活動を続け、技術を伝承していくために、少しでも皆さんに興味を持ってもらえたらと思います。

日時 3月15日(日) までの午前9時~午後5時(最終日は午後4時まで)

場所 郷土博物館 ※直接会場へ。

問合せ 郷土博物館 ☎ 493・8585



きよせさきおグッズ